■足踏脱穀機

刈り取って乾燥させた稲穂から籾を扱き落とすのに用いた足踏み式の回転式の脱穀機。大正時代に入ってこれが登場するが、長く千歯こきになれていた人たちは千歯こきの方が仕事が早いといって、足踏脱穀機をすぐには導入しなかった。円筒形の同を横にして逆Ｖ字形の銅線や鉄線の歯を千鳥掛状に交互にずらして植え並べ、胴部に連結させた踏板を足で踏んで回転させ、そこに束ねた稲穂をあてて扱く。

■唐竿（クルリ棒）

木や竹の先に取り付けた棒や板を回転させて、稲を打って脱穀する。千歯こきで脱穀しきれなかったものを脱穀する。

● 選別 ●

〔 脱穀した籾には、稲の葉や藁くずが混ざっている。これを様々な方法で取り除く 〕

←■箕

中に選別する穀物を入れ、両手で持って上下にあおるように動かすと風が起き、それによって軽いゴミや藁くずは箕の外に飛び出したり、前方によったりし、重い実が後方にたまる。時折、箕の床を張るように、力を加えて前方に集まった藁くずなどを口の先から外にはじき出す。脱穀した穀物を選別するだけでなく、近距離での運搬にも用いた。

■唐箕→

人力で起こす風力を利用して選別を行う道具。江戸時代に中国から伝わったものとされ、それまで行っていた箕による作業よりはるかに能率が高く、広く各地に広がっていった。胴体に組み込んだ四枚羽の扇板を連動するハンドルで回転させて風を起こし、前方上部に載せた漏斗から脱穀した穀物を適量ずつ落下させ、風力によって選別する。